202306KeMCo

View Report

Campaign Preview　HTML Source　Plain-Text Email　Details

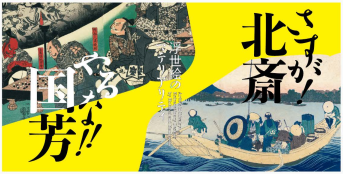
View this email in your browser

Keio Museum Commons
国芳
北斎
11:00
18:00
入場無料

KeMCoでは、5月15日（月）より「『さすが！北斎、やるな！！国芳』－浮世絵のマテリアリティ」を開催中です。
展覧会は前期と後期で作品の入れ替えがあります。前期は6月13日（火）まで。
世界的に有名な浮世絵師の作品を間近でご覧いただける展覧会です。とっても目立つこのバナーを目印に、ぜひご来場ください。

KeMCoの近況

【開催中】「さすが！北斎、やるな！！国芳」－浮世絵のマテリアリティ


さすが！
北斎
やるな！！
国芳
浮世絵のマテリアリティ

好評開催中の展覧会「『さすが！北斎、やるな！国芳』－浮世絵のマテリアリティ」は、慶應義塾が所蔵する高橋誠一郎浮世絵コレクションのなかから、互いに他とは一線を画するエキセントリックな表現で人気を博した二人の浮世絵師、葛飾北斎と歌川国芳の作品を紹介しています。あわせて、展覧会で初紹介される新出の絵師たちによる下絵群からは、彼らの生き生きとした筆さばきを十分にご堪能いただけることでしょう。

「さすが！北斎」「やるな！！国芳」とは、今回ご覧に入れる手練れの絵師たちの作品をみて、思わず漏れてしまう自然な声ではないでしょうか。理屈抜きで、まずはお楽しみください！

「さすが！北斎、やるな！！国芳」－浮世絵のマテリアリティ

前期｜2023年5月15日（月）～6月13日（火）
後期｜2023年6月15日（木）～7月15日（土）
特別開館｜6月17日（土）、7月15日（土）
臨時休館｜6月14日（水）、7月3日（月）
開館時間｜11:00～18:00（土日休館）
会場｜慶應義塾ミュージアム・コモンズ展示室（三田キャンパス東別館）
対象｜どなたでもご覧いただけます
費用｜無料（事前予約不要）
主催｜慶應義塾ミュージアム・コモンズ（KeMCo）、慶應義塾大学三田メディアセンター
助成｜公益財団法人　花王 芸術・科学財団

ギャラリートーク｜
6月9日（金）17：00〜17：30
6月19日（月）17：00〜17：30
7月7日（金）14：00〜14：30
事前予約推奨。WEBサイトよりご予約下さい。

「さすが！北斎、やるな！！国芳」ー浮世絵のマテリアリティ

KeMCo×カフェ八角塔　氷菓「山下白雨」「凱風快晴」

慶應義塾ミュージアム・コモンズ（KeMCo）で開催中の展覧会「さすが！北斎、やるな！！国芳—浮世絵のマテリアリティ」をもっとお楽しみいただくために、カフェ八角塔では、葛飾北斎の「冨嶽三十六景」をイメージしたかき氷を期間限定で提供いたします。

「冨嶽三十六景」より「山下白雨」をイメージしたかき氷は、ほうじ茶シロップと竹炭パウダーを用いて黒い山肌を、「凱風快晴」をイメージしたかき氷は、杏とミックスベリーのシロップで赤い山肌を再現しました。

氷を食す歴史は、古く平安時代からあり、江戸時代には、加賀藩が将軍に天然氷を献上していたことが知られています。庶民が氷を食べられるようになったのは、明治時代に入ってからと言われていますが、北斎や国芳の時代には、美人画のなかで、器の雪を富士山に見立てた趣向も見られます。
三田キャンパスの展覧会散策のもうひとつの思い出作りに、モダンなかき氷をぜひお楽しみください。

販売期間｜
氷菓　「山下白雨」　6月15日（木）〜7月8日（土）
氷菓　「凱風快晴」　7月10日（月）〜7月28日（金）
価格｜700円（税込）
店舗情報｜カフェ八角塔（慶應義塾大学三田キャンパス図書館旧館内）
営業時間｜10時〜18時 (ランチタイム11時〜14時 / ティータイム15時〜18時)
※氷菓の提供はティータイムのみです
休業日｜日曜・祝日・そのほか大学指定休あり
企画｜慶應義塾ミュージアム・コモンズ、カフェ八角塔

【参加申込受付中】ils issue 0「新しい世界制作の方法」

Stadsplattegrond / City map
Druk op knop voor info
Push button for info

同時代のクリエイティブ産業やコミュニティについて知り、実際にその領域で活動している人物たちと繋がることによって、自分自身のキャリアにおける「スタート地点」を作る連続イベント。
ils issues では、様々な環境で小さな実践を積み重ね、自分なりのキャリアを形成していったクリエイターやアーティストとの対話やワークショップを行います。
自分と向き合いながらやりたいこと・達成したい目標を見つけ、実際のアクションにうつす為の知識や知恵をインストールすることを目指します。

本イベントは、クリエイティブ産業に関心のある学生の考案から生まれた、トークとディスカッションを中心としたイベントです。
5月26日（金）に開催された第一回では、ラッパー・TaiTan氏とアーティスト・布施琳太郎氏をお招きし、お話をうかがいました。

アートやカルチャーに興味のある学生の方はぜひご参加ください。

＊本プログラムは、アートやカルチャーへの問題意識を持つ学生と協働して、ディスカッ

ションのプロセスを重視しながら学生主体の企画を展開する、KeMCoのイベント・シリーズ「KeMCo Peer-learning Series」の一環として開催されます。

〈KeMCo Peer-learning Series〉ils issue 0「新しい世界制作の方法」

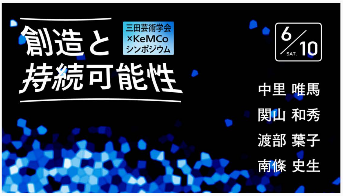
日付｜
#2　6月23日（金）　19:00-21:00
カルチャーナラティブ：カルチャーがカルチャーであるためのオルタナティブ
#3　7月14日（金）　19:00-21:00
カルチャーナラティブ/ワークショップ：都市文化に沿った生態系の整理
#4　8月18日（金）　19:00-21:00
カルチャーナラティブ/ワークショップ：小さな実践から大きな文化へ

会場｜慶應義塾ミュージアム・コモンズ展示室（三田キャンパス東別館）
対象｜大学生、大学院生（慶應義塾大学の学生でなくても参加できます）
開催形態｜対面（ほぼ毎回の録画でのアーカイブを予定しています）
主催｜慶應義塾ミュージアム・コモンズ（KeMCo）
企画｜Hajime Matsuo
企画協力｜Hisatomo Kato(CON_)

各回前日までの申し込み制です。詳細と申込は以下よりご確認ください。

ils issue 0「新しい世界制作の方法」

【予約不要】三田芸術学会×KeMCoシンポジウム「創造と持続可能性」


創造と
持続可能性
三田芸術学会
×KeMCo
シンポジウム
6/10
SAT.
中里 唯馬
関山 和秀
渡部 葉子
南條 史生

三田芸術学会は、慶應義塾ミュージアム・コモンズと共同し、シンポジウム「創造と持続可能性」を開催いたします。シンポジウムには、三田芸術学会会員だけではなく、どなたでもご参加いただけます。

今回は、ファッションデザイナーの中里唯馬氏に、テクノロジーとクラフトマンシップを融合させたものづくりによる社会的課題への取り組みを、Spiber株式会社の関山和秀氏に、バイオサイエンス研究による人工タンパク質素材の開発と今後の展開について、「創造と持続可能性」というテーマでお話し頂きます。

三田芸術学会×KeMCoシンポジウム「創造と持続可能性」

登壇者
中里 唯馬（ファッションデザイナー）
関山 和秀（Spiber株式会社　取締役兼代表執行役）
渡部 葉子（慶應義塾大学アート・センター教授・キュレーター／慶應義塾ミュージアム・コモンズ副機構長）
南條 史生（キュレーター/エヌ・アンド・エー株式会社　代表取締役）

プログラム
◎開催の挨拶｜南條 史生（三田芸術学会 会長）　渡部 葉子（慶應義塾ミュージアム・コモンズ副機構長）
◎講演｜
中里 唯馬「ファッションの未来」
関山 和秀「バイオものづくりと循環型社会の実現」
◎ディスカッション｜
パネリスト｜中里 唯馬、関山 和秀、渡部 葉子　モデレーター｜南條 史生
◎質疑応答

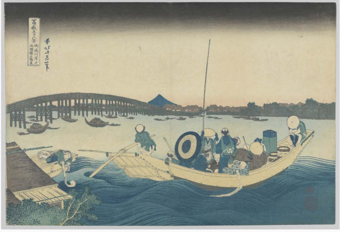
日付｜6月10日（金）13:30～15：00
対象・費用｜どなたでも・無料
開催形態｜オンライン・ライブ配信（Zoom Webinar／予約不要）
https://keio-univ.zoom.us/j/85637682863　（開始時間にオープン）
主催｜三田芸術学会、慶應義塾ミュージアム・コモンズ

お問合せ｜三田芸術学会　bibiken@flet.keio.ac.jp

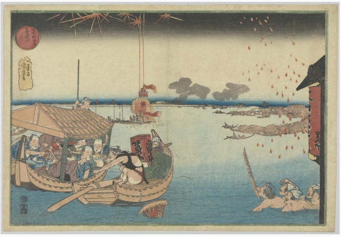
三田芸術学会×KeMCoシンポジウム「創造と持続可能性」

展示室より、推しモノ #19

開催中の「『さすが！北斎、やるな！！国芳』－浮世絵のマテリアリティ」より、前期（6月13日）まで展示中の作品を紹介します。



葛飾北斎　「冨嶽三十六景 御厩川岸より両国橋夕陽見」慶應義塾（高橋誠一郎浮世絵コレクション）（前期展示）



歌川国芳　「東都名所 両国の涼」慶應義塾（高橋誠一郎浮世絵コレクション）（前期展示）

展示室でみると、「御厩川岸より両国橋夕陽見」は、絵自身がうっすら発光しているかのように見える。眩い光ではなく、まさに夕暮時の光だ。それはなぜだろう。うっすら朱色が施された仄明るい空との対比で、手前の波や、富士の藍色がシルエットのように、浮かび上がる、いわば逆光の効果かもしれない。渡し船上の人々を描く色数を抑えている点も、夕暮れ時の光の表現に一役買っている。

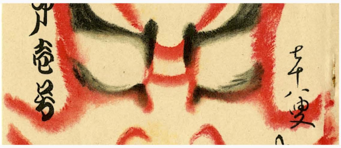
一方、この絵の隣には、同じ両国を題材にした国芳による「両国の涼」が展示されている。こちらも空の自然な表現が美しい。墨色の空にうちあがる赤い花火、対岸の煙、舞い落ちる火の粉など細やかな描写に、臨場感があふれる。ただ、こちらは光よりも声を発するかのようなにぎやかさだ。両国の夏の風物詩、花火を楽しむ人々を描いているが、まるで花火を見ていない。その皿をよこせと言っている声が今にも聞こえそうではないだろうか。

展示室でぜひ二つの作品を見比べてほしい。

松谷 芙美（KeMCo専任講師）

空き地

慶應義塾大学アート・センターにて開催中のアート・アーカイヴ資料展XXV「歌舞伎への情熱——田邊コレクション／『役者』関係資料展」を紹介します。



戦後間もない1947年、一つの歌舞伎雑誌が誕生しました。創刊号の表紙は7代目幸四郎の押隈で飾られています。ザラ紙の雑誌ページはびっしりと活字で埋められ、飢えるように活字を読んだ当時の人々の情熱が感じられます。慶應義塾大学アート・センターでは、この1949年までの2年間に18号を数えた歌舞伎雑誌『役者』の関係資料を展示しています。雑誌に掲載するために撮影された舞台写真や楽屋での役者の姿をご覧いただけます。雑誌にちりばめられた挿図の原画には生き生きとした筆使いが息づいています。一方、現在、KeMCoでは浮世絵の展覧会を開催中ですが、浮世絵と歌舞伎は切っても切り離せません。前期の展示作品の中には鬼に連れ去られる8代目団十郎を人が群がって引き留めようとする死絵があります。絶大な人気を誇った役者でありしかも謎の自殺を遂げたという事件性から百を超える死絵が作られたと言います。この8代目の生涯を新作歌舞伎にしたのが11代目団十郎です。海老様として一世を風靡した海老蔵としてのその姿も数多く見出すことができます。現在活躍する役者たちの先達に、ぜひ会いに来てください。

渡部 葉子（KeMCo副機構長、慶應義塾大学アート・センター教授／キュレーター）

お知らせ

三田でご覧いただける展示

2023年度春季企画展　曾禰中條建築事務所と慶應義塾 I　明治・大正編
6月27日（火）–9月2日（土）
会場｜福沢諭吉記念 慶應義塾史展示館

「アート・アーカイヴ資料展XXV「歌舞伎への情熱——田邊コレクション／『役者』関係資料展」
5月22日（月）–7月28日（金）
主催｜慶應義塾大学アート・センター
会場｜慶應義塾大学アート・スペース

KeMCo Voiceでは皆様のご意見・ご感想を募集しております

KeMCo Voiceやミュージアム・コモンズへご意見・ご感想がございましたら、以下のアドレスまでお寄せいただければ幸いです。
いただきましたご意見は匿名でご紹介させていただく場合がございます。紹介をご希望でない場合はその旨をお書き添え下さい。

> ご意見・ご感想はこちら

次回の*KeMCo Voice*は*2023年7月*に配信予定です。
過去のニュースメールはこちら